

かかりつけ医・かかりつけ薬局の推進による服薬の適正化事業

(節薬バッグ事業) 質疑応答・要望 (29.7.20 補備説明会分)

区 分	質 問	回 答
アンケート	アンケートのチェック方式が分りにくい、数字に○が良いのでは	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケートの内容については、明治薬科大学の倫理委員会を経て決定しているので変更困難。 ●様式については、意見の反映を次回検討
	アンケートに手間がかかる。簡素化希望	
葉 書	葉書未達の方が多い	<ul style="list-style-type: none"> ●葉書未達については調査（対象者には、郵便事故が無ければ宛先には届いているはず） ●葉書持参の方にはもれなく景品交付とするよう変更 ●葉書の記載内容については次回以降反映
	葉書が説明不足で、葉書を持ってくれば景品と交換できると考えている方ばかりです	
	葉書にアンケートがある旨記載があると現場の手続きがスムーズになる。	
景 品	景品が一般的でない。(企業も特定)→かかりつけ薬局で希望の商品に替えられるチケット等は如何か？	●景品の内容については、今回は変更困難。
服薬状況報告書	報告書をウインドウズアクセリ-ワードパッド形式でUP希望	●薬剤師会 HP にリッチキルトバージョンをUPしますので、活用してください。御指摘の次回受診予定日等追加アレンジして使用されて結構。
	報告書に「次回受診予定日」の項目が必要	
	服薬状況報告書が少ない日数の薬を足す形式となっているが、受診間隔をほぼ同じにしている患者さんだと、家にある薬が増えていく。ある程度日数がまとまったら、処方日数を疑義照会して減らすのか？(通常の業務では、余分な日数残っている薬の方の日数を減らしてもらい残薬を調整しているため)	●マニュアルで計算する統計上の残薬と実際の保険調剤における残薬の計数は異なることがあります。服薬状況報告書は実保険調剤なので、貴局の対応でも結構です。

対象患者	残薬はあっても現在服用している薬とは関係ない薬ばかりで、処方内容の調整に至らない人ばかり	<ul style="list-style-type: none"> ●御指摘のとおり。国保課と調整して対象を広げる考えです ●残薬の有無については、患者様毎解釈が異なるので、一度全てのお薬を持参して頂く事も考慮
	対象が現役世代で経済観念もしっかりしているため残薬が出ない。→70歳以上を対象に加えるべき。	
	2名葉書持参されるも事業の説明を要望。残薬調整は不要の方。対象者の剤数少なく75歳以下で自己管理できる方が多い	
	残薬が無いことで調整開始が少ないのでは	
医療機関の対応	近隣医療機関が残薬調整に積極的に特に困ること無し	